

## 国際センター通信 (No. 46)

### 土木学会第 104 代会長 就任挨拶 「次世代に繋ぐ、生産現場のイノベーション」

一昨年に土木学会は創立 100 周年を迎えました。今までの 100 年とこれからの 100 年を考え、「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」という 100 年ビジョンが宣言されました。

これからの 100 年を考える上で、まずは、「担い手確保」が重要と考えております。自然災害や地球温暖化への対応など、「持続可能な社会の礎を築く」という意味で、我々土木技術者がやるべきことは沢山あります。その対応のためには、若手、女性をはじめとする人たちに土木の世界に入って来てもらわなければなりません。

「現場イノベーションプロジェクト～次世代に繋ぐ生産現場のあり方～」と題する会長特別タスクフォースを立ち上げました。もう少し現場に目を向けて、次の若い人たちに受け継ぐべき生産現場のあり方を、学会の立場で検討しようというものです。私はこれまで 30 年近く現場を歩いてきました。私のような経歴の者が土木学会会長に選ばれたのも、もっと現場のことに目を向けようという思いが広がっているからではないか、とも考えております。

タスクフォースでは、3つのテーマを検討します。

まずは、コンクリートの生産性や安全性の向上です。プレキャストの積極的導入などについて、コンクリート標準示方書への反映も視野に入れて、考えていきます。

2つ目は、IT化やロボット化です。担い手減少対策や生産性向上対策として取り組むのはもちろんですが、個別の技術を導入するだけでなく、得られた情報を蓄積し、構造物カルテやビッグデータとして活用していきたいとも考えています。

3つ目は、若手、女性、シニアを含めた担い手確保、また、異分野を含めた土木界の裾野拡大です。学会の特徴を生かし、教育の場と連携した取組みに力を入れていきます。

こうした活動に日本が注力することにより、活動成果が海外の現場でも生かされ、国際貢献にも繋がることを期待しております。

国際活動としては、今年 8 月、3 年に一度の第 7 回アジア土木技術国際会議が米国ハワイで開催されます。2019 年の次回開催国は日本です。今年から開催準備を本格的に進めてまいりますとともに、国際センターを中心とした米国、アジア地域各国の学会との地道な交流活動に努めてまいります。



第 104 代会長  
田代 民治

## ACECC 技術委員会 TC21 の活動紹介

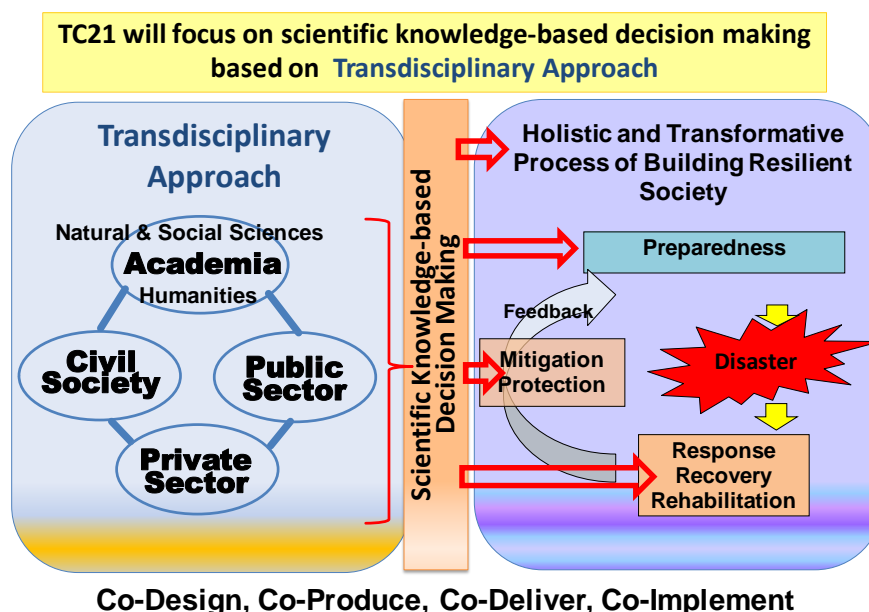
ACECC（アジア土木学協会連合協議会）は、アジアを中心とした国々の土木学協会の連合体であり、1999年に設立され、現在は13か国が参加している。ACECCには各種の委員会が設けられ、それぞれアジア地域が抱える社会資本整備や土木技術に関する課題を討議し問題解決を目指している。表題にあるTC21は、ACECC内で企画された21番目の技術委員会（Technical Committee）の略称であり、正式タイトルはTransdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasterである。本委員会は、ICHARM（水災害・リスクマネジメント国際センター）の竹内邦良顧問を委員長として、昨年の10月に立ち上げられた。「Transdisciplinary」という言葉自体は、共通の目的に向かって技術および分野の異なる関係者が協働するという概念で、和訳では「分野横断的」あるいは「協働」というような例が見られる。

本委員会の狙いは、防災・減災の意思決定が、各分野の専門家や関係者の科学的知見に基づいてなされる仕組みを作り、その実践を推進することにある。これは、Sendai Framework for Disaster Reduction 2015-2030の中の優先事項1：災害リスクの理解及び III. 指導原則に記載のある以下の考え方を踏襲している。

第19項(e)の抜粋：Disaster risk reduction and management depends on coordination mechanisms within and across sectors and with relevant stakeholders at all levels……

第1フェーズ（～2019）として各国の政府や地域における防災体制および技術の現状を調査し、第2フェーズは、調査結果を踏まえてTransdisciplinary Approachに関する事例を参加国が持ち寄り、比較検討の中から参加国に適した実践的仕組みを見出すことを目標としている。参加国によって社会経済、技術レベル、気象、自然、文化、災害の特性が異なるため、参加国の足並みがそろわないことも予想されるが、まずはTransdisciplinary Approachとしてわかりやすい日本などの事例をワークショップなどで提示し、さらに各国の事情に適した対策手法を一緒に検討して、本アプローチの効果と実現性を共有できれば、前進するものと期待している。

今年の5月に第1回の国内支援委員会が開催され、6月10日にはフィリピン土木学会と協議して、共同でワークショップを11月にフィリピンで開催することを企画している。



本技術委員会の概念図

【記：アジア土木学協会連合協議会担当委員会 幹事 山本芳樹（日本工営）】

## アソシエイトメンバー制度の紹介

土木学会では、海外に在住する土木学会員へのサービス向上と、日本の土木技術に関心を持つ海外の土木技術者への窓口を担うとともに土木学会の会員増強のため、2000年4月の台湾分会を皮切りに、海外分会の設置を進めてきた。今日までに韓国分会、英国、モンゴル、トルコ、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムに海外分会が設置された。

近年のグローバル化を背景に、アジア地域の経済成長およびインフラ整備が進み、日本の土木界は、国際競争力の強化という課題に直面している。産官学の連携を基にこの課題に取り組むとともに、会員と現地の技術者間の人的・技術的交流を促進させアジア地域の発展に貢献するため、土木学会は国際センターを2012年4月に設立し、特に海外分会の強化・活性化を主要な活動項目として位置付け、国際交流グループを中心に活動を進めてきた。

しかし、その活動とは裏腹に、海外分会の会員数は減少傾向にある。その最大要因として、会費が高いこと、「土木学会誌」が読めず得ることのできる日本の情報が少ないことが指摘されてきた。海外分会の活性化のためには、土木学会とつながる仕組みや人的ネットワークの構築が不可欠であることから、会費を必要としない「アソシエイトメンバー」の創設を理事会に提案し、承認された。2016年4月からは海外分会を通じてメンバーの募集等の活動を開始している。

アソシエイトメンバーの骨子は、以下のとおりである。①対象者は、海外に居住する外国人とする。日本への留学経験者を積極的に勧誘する。②主に分会活動のサポーター的立場と位置付け、非会員扱いとする。③会費は徴収せず、「土木学会誌」も送本しない。

土木学会としては、海外での土木学会の活動への協力者が増え、国際活動が活性化することのみならず、元留学生とのネットワークが維持できるなどのメリットがある。一方、日本に関心を持つ海外の方にとっては、日本の土木界の動向（土木技術、プロジェクト等）に関する最新情報や、分会行事等に参加するための情報が届くことが不可欠である。現地における土木技術者ネットワークを構築していくためにも、こうした情報提供を積極的に進め、アソシエイトメンバーとしてのメリットを享受していただかなければならない。アソシエイトメンバーの増加と海外分会の活性化のため、情報提供など、各位のご協力をお願いしたい。

## 2015年度 土木学会国際関係賞の紹介

土木学会賞のうち国際関係の賞である、土木学会国際貢献賞、国際活動奨励賞、国際活動協力賞が、2016年6月10日の総会にて23名に授与された。詳細は、以下のサイトをご覧ください。

[http://www.jsce-int.org/a\\_t/international](http://www.jsce-int.org/a_t/international)

受賞者のうち4名は海外の方であり、国際貢献賞が1名に、国際活動協力賞が3名の方に授与された（下表）。

土木学会国際関係賞 海外受賞者

学会賞	氏名	所属
国際貢献賞	Romeo S. Momo	Philippine Institute of Civil Engineers, Inc. 2012, 2013 National President フィリピン公共事業道路省 次官
国際活動協力賞	WONG KUOK HUNG	(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル
	PHAN HUU DUY QUOC	清水建設(株) 土木学会ベトナム分会メンバー
	曾我 健一	ケンブリッジ大学 教授 カリフォルニア大学バークレー校 教授 土木学会英国分会長

国際貢献賞は、日本の国内外の業務を通じて土木技術の発展に重要な貢献をした2名の日本人技術者と日本の土木技術の発展と日本と他国との土木技術交流に優れた貢献をした1名の外国人技術者に授与され、国際活動協力賞は、土木分野において日本と他国の国際交流、国際協力に大きく貢献した

ほか、日本の国内外において土木技術の発展に重要な役割を担うことが期待される外国人技術者に授与された。

6月9日には、受賞者のうち、Momo氏、HUNG氏、QUOC氏を囲んで、国際センター主催の祝賀会を東京市ヶ谷のJICA地球ひろばにおいて開催した。



授賞式に参加するMomo氏  
(中央)



黄氏、ウオック氏  
(前列左から2、3番目)



お祝いの会で、JSCE幹部とともに

## お知らせ

◆土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite(英語版)にアップしました。

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

## 配信申し込み

「国際センター通信」配信の申し込みは以下のURLよりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

「国際センター通信」配信希望者登録フォーム

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

## 投稿記事募集します

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

## 英語版 Facebook

国際センターの英語版 Facebook です。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

---

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。